

“図書館司書のストライキ”を掲げて

練馬区立図書館専門員労働組合 経過報告会

●これは 2019 年 2 月 12 日に行われた【 “図書館司書のストライキ”を掲げて 練馬区立図書館専門員労働組合 経過報告会】において配布した冊子内容から、読み上げ用に再構成したものです。



<宣言読み上げ原稿>

「宣言」をいたします、などと申しておりますが、何か大それたことをしてやろう、大きなことを言ってみようなどというような気持ちは無いのです。

ただ、今回の私たちの行動が、思いのほか大きな反響を呼び、様々な方に知っていただくことになりました。応援する、と言って下さるかたも、しない、と仰るかたも、どちらにしろ「何かを言う」ということは、心に刺さる、刺さるまでいかなくともその人の心に留まる何かがあったからだと思います。そして、人の心にさざ波を立ててしまい、あれはどうなった、その後どうした、と考えて下さるかたがいるのなら、これこれこうなりました、そして、私たちはこんなふうに考えています、ということをお願いする機会を作らなければならない、と思うようになりました。それが本日のこの会です。沢山のみなさんにお集まりいただき感謝申し上げます。

今回私たちが最も心を砕いた、そして気にかけてのは、図書館専門員の雇用の問題を出した活動が、果たして区民や利用者の皆さんの理解を得ることができるのか、ということでした。署名活動を始めたのは広く区民・利用者の皆さんに問題提起し理解を求める為でしたが、自分たちの利益の為だけに要求を声高に叫んでいると思われて批判を浴びるのではないかという不安が、どうしてもありました。

しかしながら、私たちの問題は果たして、私たちだけの、この一自治体の非常勤職員 57 人だけの問題なのでしょうか。

東京 23 区の自治体は司書職採用をしなくなって久しく、資格を取得し司書の仕事をしたくとも、「正規職員」として 23 区の図書館に採用される道は閉ざされています。「司書職」を目指す人は自治体の非常勤職員か、指定管理者館の司書として企業に採用されるほかに道はありません。利用料金を徴収できない公共図書館に民間企業が参入して企業としての仕事をすれば、利益を生むために削ることができるのは、その多くが人件費だと言われています。

人件費が削減されるということは実態に見合わない報酬で働かざるを得ない人が増えるという事に他なりません。

私たちの身に起こっている事態だけでなく、図書館という労働の現場で起きている状況についても世間に広く問うていくことが重要だと私たちは早くから考えていました。そしてこのことを区民の皆さん、利用者の皆さんに知ってもらうことで、公共図書館に指定管理者制度が導入されるということがどういうことなのか、たくさんの人に考えてもらいたいと思いました。

「私たちは練馬区の図書館で働きたい」、「この職場と仕事を奪われたくない」、「私たちは図書館の役に立ってきた。これから^{わがまま}も役に立ちたい」。

そう思うことは凶々しいことでも我が侷な^{わがまま}ことでもないはずだと知るためには、何より共感や共鳴という心で、たくさんの人に後押ししてもらうしかないと思い区民、利用者の皆さんとの交流会も開催しました。私たちにとって、この会がひとつの自信になったことは、冊子にも記載してありますが、自画自賛ですがこの会は本当に私たちにとって宝物のような会になりました。私たちの仕事や存在を知って貰う機会になりましたし、公共図書館司書の仕事について皆さんに理解してもらうきっかけにもなったと思っています。

私たちは図書館業務に根幹と非根幹があるとは考えていません。カウンター業務も、選書、除籍業務も、レファレンスも、子供や乳幼児向けのお話会も、各種事業も、何もかも、ひとつながりの図書館業務です。総てが図書館の大切な仕事です。何かひとつやっていたら良いというものではありません。そして、公共図書館にとって、日常的に利用者と接する窓、世間に開かれた大きな目である「カウンター」に立つことは、私たち司書が図書館業務を理解するために、無くてはならない仕事です。カウンターは私たち司書の大切な舞台なのです。図書館の仕事は、本が好きであること以前に人が好きでなければできないものです。司書なら誰でも、「良い本」が人の心に新たな「良いもの」「佳い風」を吹き込み、人を育て、人の命を救うことを知っていますが、その「良い本」を届けるためには人間が好きでなければなりません。子供のときに本の栄養を沢山もらったひとは、その先の人生で何か絶望するようなことが起こっても、つまずいても傷ついても、必ずそれを乗り越える力を得ている、持っている、と私たちは知っています。それは大人だって同じです。人はパンだけでは生きられない、お金がたくさんあってもそれだけでは本当に幸せにはなれない、本の魅力を知っているひとはそのことも理解しています。その本を人さまに届けたいおせっかいをしたいのが私たちです。図書館の門を^{くぐ}った総ての利用者に、とにかく「何か良いものを持ち帰って欲しい」という思いで、いつも仕事をしています。

それほど重要な役割を持つカウンター業務ですが、区が「付带的」で「付随的業務」であると考えて軽視していることは明白でした。だからこそ最初にカウンター業務を民間事業者^に任せる発想が生まれるのです。

「カウンター業務」は区が考えるような「非根幹業務」ではない。カウンターを知らずに、カウンターで働かずに、公共図書館業務を語ることはできない。

私たちはそう考えてこの闘いを闘ってきました。

こんなに素晴らしい仕事を続けるのがこれほど困難な時代が、これほど難しい社会があっ

て良いものでしょうか。

今の職場に、今の働き方に疑問を感じる司書がいるとしたら、どうか私たちの闘いを思い出してください。私たちは特別な能力をもった図書館員ではありません。日本全国どこにもいる、ありふれた、ただ図書館で働きたいだけの非常勤の女性たちです。今回の「闘争」を通していろいろな人から「声を上げられない人が全国にたくさんいる」と聞かされました。声を上げられない事情は様々でしょうが、「あの人たちにできたのだから私たちにも何かできるかも知れない」と思ってもらえたら、これ程幸せなことはありません。私たちも、まだまだ道半ばです。

何故これほど全国の図書館に非正規職員が増えたのか、日本の公共図書館業務を非常勤職員の司書に任せきりで良いのでしょうか。地域の知の拠点であり、サードプレイスとして年々注目が集まる公共図書館を、経験とスキルを併せ持った自治体の正規職員に安定的に担わせることこそが、地域住民や利用者への本当のサービスではないのでしょうか。非常勤職員にスキルと経験だけ積ませ、何十年も安い報酬で雇い続けてきたどんな自治体にも、区民市民のためになる図書館への賢明なビジョンがあるとは思えません。

これは 1998 年 3 月 4 日、練馬区図書館協力員労働組合結成大会において発表された結成宣言です。読み上げてみます。

“私たちは「健康で安心して働きつづけられる職場」「明るい働きがいのある職場」「誰でも健やかに暮らすことのできる地域」をつくることを目指して、練馬区職労や図書館分会、そして自治労の全国の仲間とともに歩いていくことを、本大会の名において宣言します。”

この宣言からちょうど 21 年、ここから更に一歩進めて、私たち練馬区立図書館専門員はもう一度、今度は全国の図書館員に向けて、新たな「宣言」をしたいと思います。

宣 言

私たちが、非常勤雇用の待遇改善と、「健康で安心して働きつづけられる職場」を目指し、練馬区立図書館専門員労働組合を結成して、21 年が経ちました。しかし、図書館をとりまく労働環境が、改善される兆しは見えません。

図書館は、地域に根ざし、誰もが平等に情報にアクセスできる、市民生活を支える基盤です。にもかかわらず、その現場の多くは、不安定な雇用条件のもと、低賃金で働く非正規の司書によって支えられています。その熱意と努力に、民間・直営の区別はありません。

この状況を変え、図書館で働くすべての人が、専門職としての誇りを持って、安定した待遇のもと力を尽くせる環境を作っていかなければ、図書館を守り、次の世代に引き継いでいくことはできません。

社会に広く問題を投げかけるきっかけとなった、このたびの労使交渉を経て、私たちは、すべての図書館員が力を合わせて行動していく必要性を強く感じています。

それぞれの現場が起こす小さな風が、全国の図書館員をつなぎ、やがて大きな力になって図書館の未来を変えていくことを信じて、私たち練馬区立図書館専門員は、以下のことを宣言します。

- 1 私たちは誰もが安心して暮らせる地域の拠点としての図書館作りを目指し、図書館を必要とする総ての利用者のために働きます。
- 2 私たちは司書の専門性に敬意を払わず、働くものを幸せにしない指定管理者制度には反対します。
- 3 私たちは日本全国、総ての図書館員が誇りを持って働けるよう、その地位向上と待遇改善のために活動します。そのためにあらゆる努力を惜しみません。

2019年2月12日

練馬区立図書館専門員一同



地方最低賃金審議会の公開度ランキング



最低賃金大幅引き上げキャンペーンは、2月25日、厚生労働省で記者会見を行い「地方最低賃金審議会公開度ランキング」を発表した。はじめに、最低賃金大幅引き上げキャンペーン2019の河添さんが「47都道府県すべての地方最低賃金審議会の議事録を取り寄せ調べたところ、都道府県によって、公開のされ方にきわめて大きな違いがあることがわかったので、地方最低賃金審議会公開度ランキングを作成した」と会見の趣旨を説明した。